

海峡マラソンの完走（感想）

おもてなしの心に包まれて

安田 和夫

いつのまにか73歳。無理をせずに軽くジョギングをするスピードで潮風を受けながら走った。沿道から老若男女の「頑張ってえ〜」の声援。地元開催ならではの、友人・知人とのハイタッチ。給水場での水分や食べ物補給、冷たいタオルやスプレー、プラスバンドや平家太鼓の演奏等のおもてなしでパワーアップ。まさに記録より記憶に残る大会だ。コース前半は平地、後半は山あり谷ありのアップダウン。人生そのものだ。慌てず騒がず落ち着いてゴールに向かってGO！11の関所すべてを、10分前に通過する事を意識して、制限時間6時間の3分前でゴール、滑り込みセーフ。8個目の完走メダルをゲットしました。



安田さん、完走おめでとうございます。（佐々木：みもすそ川）ボランティアは、例年寒くて辛い思いばかりでしたが、今年は、仲間とメールしながら楽しめました。情報の大切さを実感し、完走者とボランティアのかんそう(完走・感想)を企画しました。



壇ノ浦から！（倉本）



給水ボランティア活動に従事して

午前8時半 号砲一発！早くも3分後には『先頭は三百目通過！』とのSNS連絡。私は海峡交番前の第5給水所が受け持ちです。“まだまだ時間はあるな”と思いながら準備をしていたところ、『姉妹都市広場前通過！』という知らせ、続いて『先頭は壇ノ浦を通過したよ』『みもすそ川を元気に駆け抜けた！』。それぞれの一報は、マラソンボランティアに加わっているまち協の仲間たちからです。

スマホを片手に、給水準備に忙しいボランティアスタッフに刻々と変化する先頭集団情報を告げます。私の給水所は折り返しランナーへのおもてなし。仲間たちからの一報が途切れ、一息ついている間、5キロメートルの競技者に声援を送っていました。

すると“9時8分”に『折り返しの先頭はみもすそ川を通過！』とのSNS情報。“速いなあ”と感じながら、「先頭がみもすそ川から、15分後にはここを通過するだろう！」と90名の給水スタッフに呼びかけます。

やがて、SNS情報は『壇ノ浦通過！姉妹広場通過！』と、タイミングよく一報を受ける。われわれ第5給水所のスタッフもいよいよ“臨戦モード”です。

昨年までは、このような力走するマラソンランナーの臨場感はなく、時計と歓声の流れで雰囲気を感じていたことを思えば、今回は、まち協のスタッフの正確なSNS情報による連携プレーで、見事な沿道ボランティア活動が出来たと実感しました。

中東まち協沿道連絡サポートスタッフの皆さん見事なチームプレーでした。下関海響マラソンありがとう！（内山：海峡交番の前）



マラソンコース管理

毎年三百目交差点給油所前から海峡交番周辺でコース管理に当たっています。午前八時半の号砲から三分で颯爽と先頭走者が白バイ先導の下二位グループを従えて管理地点を通過しました。姉妹都市サントスから初出場の青年でした。（林）

第4給水所 亀山八幡宮と赤間神社の間の地点にて給水のボランティアをしました。

長机いっぱい並べた紙コップがあつという間になくなっていき、時には準備が間に合わなくなりそうな時もありましたが、ボランティアスタッフの連携プレーで提供することができました。ランナーの方から「頂きます」「ありがとうございます」とこちらがお礼を言われることも多くあり、嬉しく思いました。ランナーの皆様が下関・海峡の風を感じながら気持ちよく怪我なく走ることが出来るようこれからも自分ができるお手伝いをしていきたいです。そしてマラソンだけでなく観光地として、また下関を訪れて頂ける事を願っています。（おつじ）



【SNSを楽しむ】



ICT担当 倉本喜博

※ICT(Information and Communication Technology)の略

スマートフォンを持っている人の多くが使用している『LINEライン』は、リアルタイムで友だちとメッセージや画像・動画のやりとりができるSNSアプリです。スタンプを使うこともできるので、楽しくトークができます。また、グループを作成して、そのグループにメンバーを招待して複数人が一つのグループ内でトークできるのは、とても便利な機能です。中東地区まちづくり協議会でも、総務部会、子育て・青少年育成部会がそれぞれLINEグループを作成しており、報・連・相に威力を発揮しています。

スマートフォンやタブレットで、無料のLINE公式アプリをインストールして、利用登録をします。LINEを使い始めるのに不安がある理由の多くが、



勝手に友だちが追加・登録されるのでは、ということがありますが、その場合は利用登録の際に「友だち自動追加」と「友だちへの追加を許可」という項目を『オフ』にしておきましょう。

また、LINEを使っている人同士であれば、無料で音声通話・ビデオ通話ができるのも嬉しい機能です。他にも多くの便利な機能がありますので、是非使ってみてください。

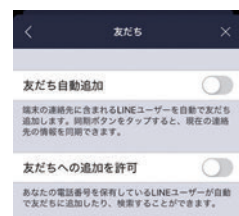
○中東地区まちづくり協議会のウェブサイトが新しくなりました。

<http://chuto-machikyo.net>



○中東地区まちづくり協議会のFacebookページ

<https://www.facebook.com/chuutou.machikyou>



海峡
夢
未来

中東地区まちづくり協議会

まち協ニュース

第17号

事務所
下関市唐戸町4-1
カラボピア4F
TEL083-250-8380
FAX083-250-8380

題字：書道家 角 廣行

ペットボトルツリー

1月31日まで

(点灯は毎日17時～22時まで。大晦日は元旦朝まで。)

常盤公園（幸町・勤労福祉会館西隣り）



□ ペットボトルツリー点灯 地域づくり部会

令和1年11月30日（土曜日）常盤公園（幸町・勤労福祉会館西隣り）において市役所吹奏楽部の応援出演も頂き、来賓として前田市長をお迎えし、第一幼稚園の園児、梅光学院大学生、地域の各層住民100名余が参加「大きな声でのカウントダウン」で点灯。変化するイルミネーションとペットボトルツリーのコラボで華やかな輝きが出現。1月31日まで街の風物詩として楽しませてくれるでしょう。是非鑑賞下さい。点灯は毎日17時～22時まで。大晦日は元旦朝まで。（文責：田中）



別場所にあります。探してみてください。

北浦街道探訪記シリーズ 第4回

奇兵隊が開湯した！ロマン溢れるお宝「辨天湯」

萩から奇兵隊の子孫が訪ねて来たと言われているのは現店主の作田賢治さん。

奇兵隊士が幕末から明治時代にかけて栄えていた稲荷街遊郭街（現在の赤間中央通界隈）での開湯なのでさぞかし繁盛したことは想像できる。辨天湯と言う命名もかつて開場していた芝居小屋「辨天座」が由来している。又、この一帯は「辨天座通り」と言われている。なんとも言いえないロマンを感じる銭湯である。

その後色々な変遷はあったものの連綿として辨天湯は引き継がれてきた。現在の銭湯幸町（？）は、作田賢治さんの祖父が戦後（昭和28年頃）前経営者から購入されたもの。賢治さんは3代目。祖父の実家は広島県福山市で木材関連の生業をされていたので、木屑（燃料）の有効活用から銭湯が浮かんだようだ。現建物は戦災後に建てられたもので、部分的には補修をされてきたが70年余経過している。下関ではかつて80軒あった銭湯も今では9軒寂しい限りである。

辨天湯は北浦街道の貴重な「お宝」である。銭湯前には何故かお地蔵様が鎮座しておられる。気になる興味深い風景である。下関幸町出身歌手「山本譲二」さんも子供の頃通った辨天湯をこれから地域で愛し守り続けていくまでも営業を続けて銭湯文化を守って欲しいという願いを込めて、一度辨天湯を訪れませんか。きっと軟水のお湯のファンになりますよ！次回の「北浦街道探訪記」もお楽しみに！（文責：田中）

